

(事後評価)

## 産学融合トップランナー発掘・養成システム

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：長岡技術科学大学（総括責任者：新原 皓一）

### プロジェクトの概要

産学融合トップランナーを養成するための人材システムを構築する。このため、キャリアアップ制、キャリアバックアップ制を含む任期制に則る産学融合トップランナー養成センターを学長主導の下で創設し、企業との強力な連携を特徴とする産学融合研究と教育へ参画させ、産業創出に繋がる優れた成果と教育者としての素養獲得を求める。3年間で採用される10名の特任准教授・講師は研究グループのリーダーとして、企業との連携活動に向けて、学内の体制・設備を活用するとともに、ポスドク、企業研究者や大学院生の受入れ、十分な研究スペースの獲得等、本学の他の教員に勝る研究環境を得る。テニユア採用教員は中間評価時に若干名、最終的には6名以上を目標とする。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

テニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）の選考・採用にあたって学外有識者の参画を求めているものの、中間評価及びテニユア審査では産業界の有識者の参画の下に TT 若手を養成する体制を構築したことは評価できる。今後のテニユアトラック制（以下「TT 制」という。）の継続・定着にあたって、TT 制を適用して多くの若手研究者を採用することを期待する。

- ・**目標達成度**：テニユアポスト準備率は60%であったが、TT 若手のテニユア資格付与率は100%であり、さらに、産学融合というプロジェクトテーマにふさわしく、産学連携共同研究や特許出願などの点でも成果を上げていることは評価できる。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：外国籍研究者の採用が少ないものの、5回にわたる国際公募には多くの応募者があり、公平・透明な選考・採用体制を構築し、優れた TT 若手を採用していることは評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：メンター教員の過度な干渉の排除、給与制度の工夫、ライフイベントに対応したトラック期間の延長、セーフティネットの設定など TT 若手のための十分な制度設計が行われたことは評価できる。しかし、当初準備していたテニユアポストが採用した TT 若手数を下回っているため、テニユア審査にあたって相対評価とせざるを得なかったこと及び今後の若手研究者育成方法を改善することを期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：優れた TT 教員を採用・育成し学内に大きな波及効果をもたらしたことや本プロジェクトによる TT 制試行結果を踏まえ、実施期間終了後における TT 制継続にあたって、テニユアポストを十分に準備するなどの改善を行っていることは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：実施期間終了後は各系のテニユアポストを用いて「産学融合トップランナー養成センター」において若手人材育成を進める計画が策定されていることは評価できる。今後は、TT 制を活かすためにも、TT 制の適用範囲を出来る限り拡大することを期待する。
- **中間評価の反映**：実施期間終了後に実施する TT 制では、テニユア採用にあたって各系のポストを使用することとし、自機関所属者の採用減に努力するなど中間評価結果を踏まえた改善は評価できる。